

甲斐市立敷島小学校 自己評価書（前期）

平成26年7月8日（火）作成

校長 「保坂 秀人」 記述者 職名（教頭）「坂本 祐二」

学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」

- ① 生きてはたらく 確かな学力を身につけた子ども
- ② 心の豊かな子ども
- ③ 明るく たくましい子ども

学校経営方針

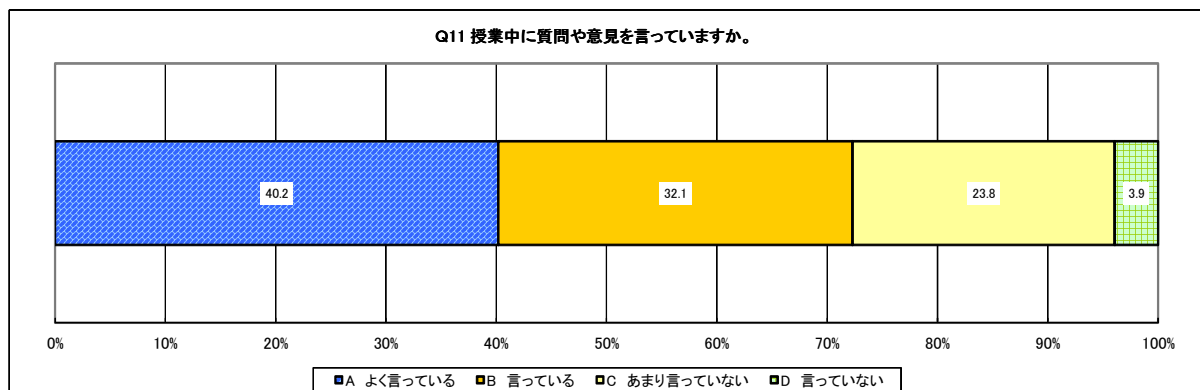
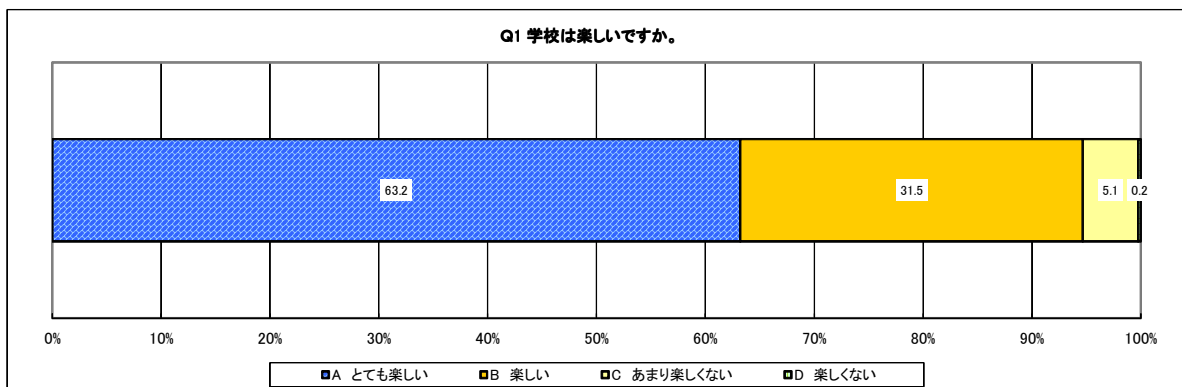
- (1) 全職員は、児童・保護者・地域の実態を的確に把握して、学校教育目標の実現に向けて努力する。
- (2) 「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努めるとともに、学習指導要領に則り、指導計画の改善と充実に努める。
- (3) 教育活動を推進するにあたり、常にPDCAに基づいた振り返りと改善を行い、その充実に努める。
- (4) 授業時数を十分に確保し、指導内容・指導法の工夫などにより学習の基礎・基本の定着を図る。
- (5) 言語活動の充実と活用型学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。
- (6) 体験学習を重視し、地域の人・文化・自然等の教育財産の活用を図り、自ら学ぶ意欲や共に学び合う態度の育成及び実践力の向上に努める。
- (7) より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる。
- (8) 特別支援教育についての啓発を図り、個々のニーズに応じた適切な指導が行える校内体制の充実に努める。
- (9) 家庭や地域社会との積極的な交流体制の充実に努め、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりをめざす。
- (10) 学習環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと、健康・安全教育を推進する。
- (11) 教職員の資質の向上を図るとともに、職員の長所を生かし、協働して教育活動に専念できる職場づくりに努める。

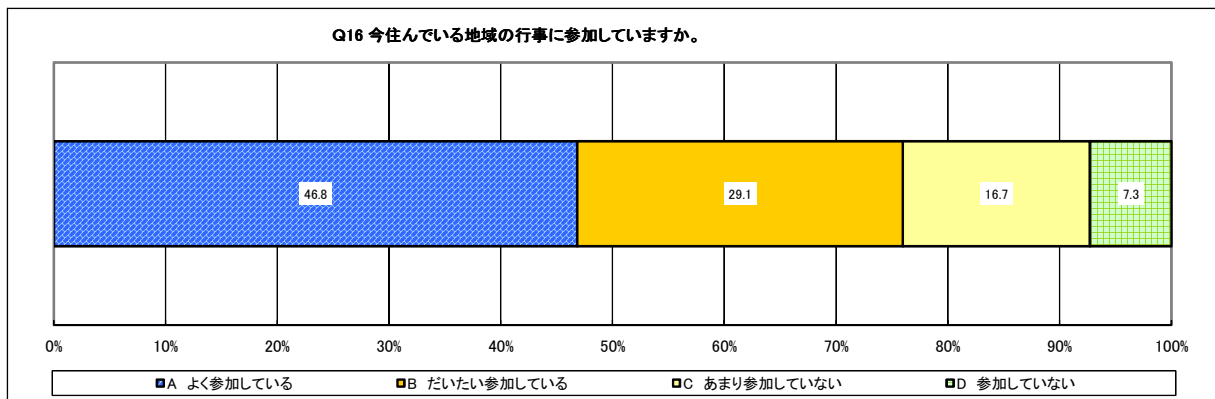
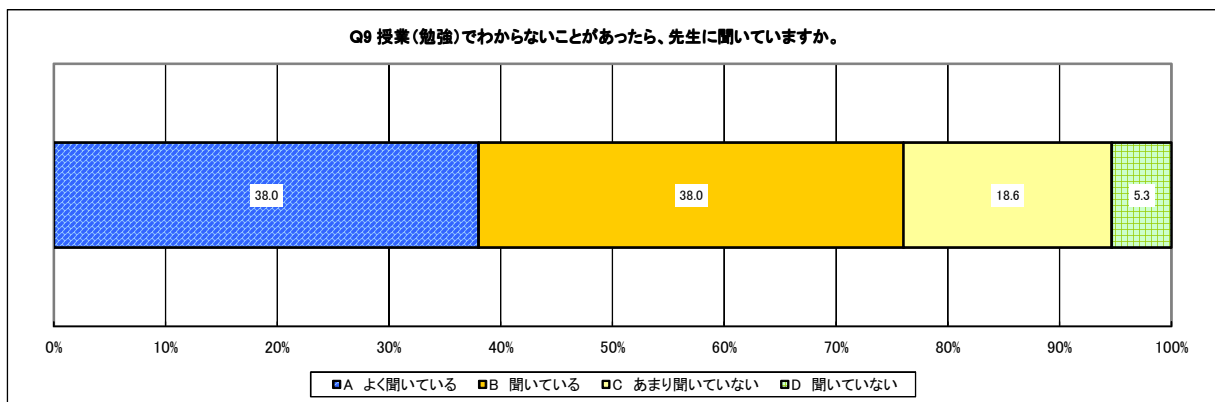
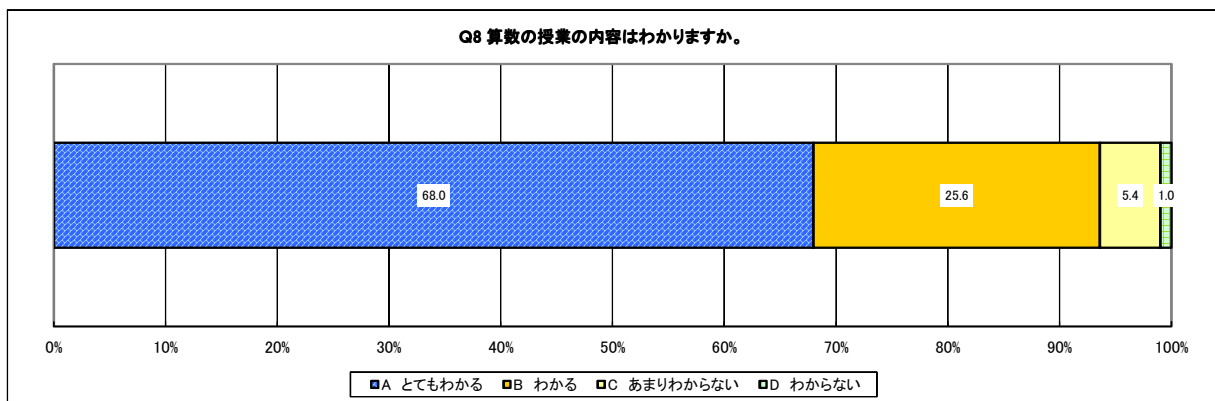
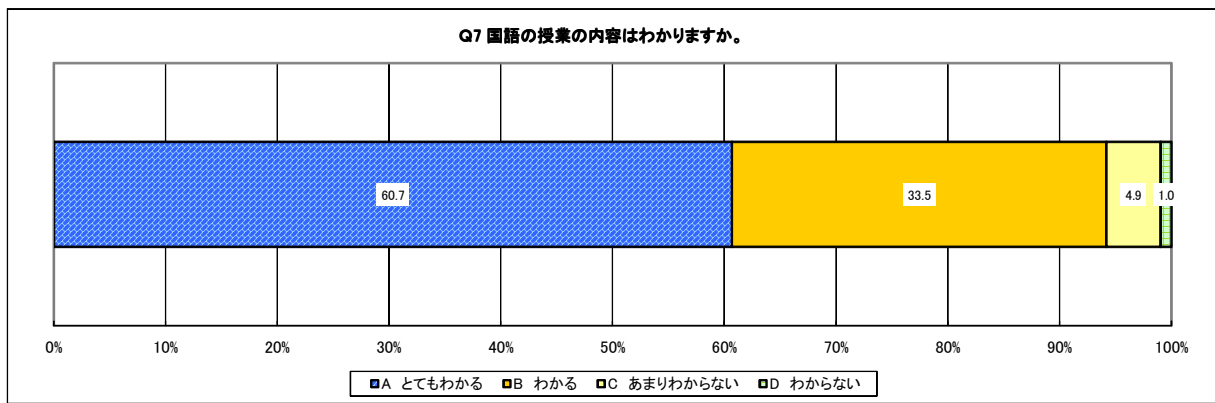
1 全体評価

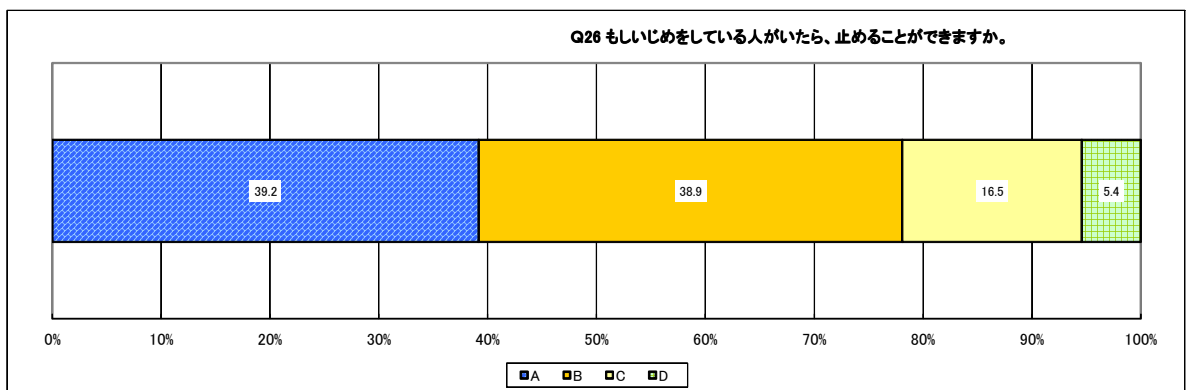
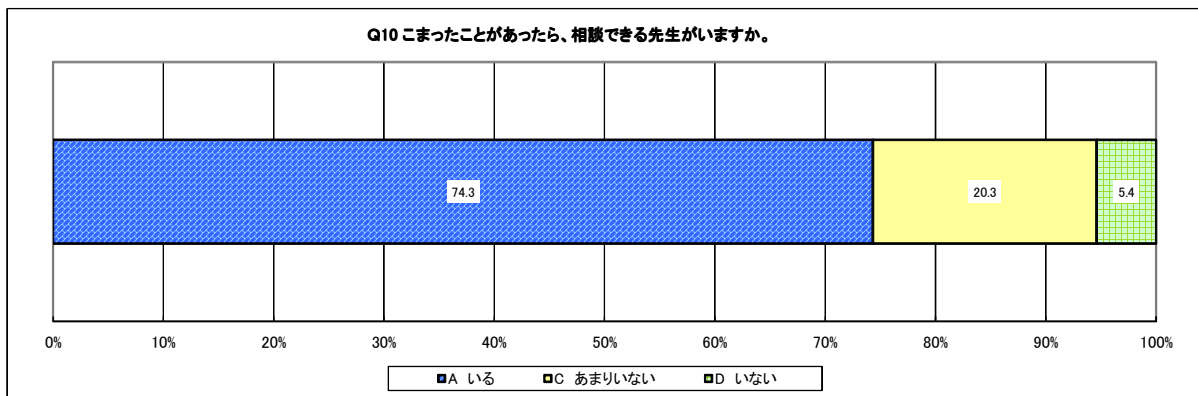
- ・ 教職員の自己評価の回答から見ると、本校の前期の教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）に、適切に対応しているかについては、「そう思う」「ややそう思う」と回答している者がほとんどである。これは、教職員が学校経営方針を理解するとともに、日頃の教育実践や校務分掌を遂行する中で、学校教育目標の具現化に努めているからであると考える。
- ・ 児童へのアンケート、全質問26項目中（内2問は具体的な数字で答えるもの）、肯定的な回答が80%を超える項目が19個（昨年同時期は17個）であり、全般的には良好な様子が伺える。
- ・ 具体的な児童アンケートを見ると、「学校が楽しいですか」という設問に「とても楽しい」63.2%、あるいは「楽しい」31.5%と回答し、昨年度前期（6

1.5%、33.1%)より、「とても楽しい」が1.7ポイント、両方を足した合計も0.1ポイント上昇しており、学校生活をさらに肯定的にとらえている。

- ・授業については、93.0%の児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。また、「授業中に質問や意見を言っていますか」という設問には、「よく言っている」「言っている」と回答している児童は、72.3%で、他の項目に比べると割合は低い。
- ・「国語の授業の内容はわかりますか」という設問に94.2%の児童が「とてもわかる」「わかる」と回答している。(昨年にはこの項目はなし。)
- ・「算数の授業の内容はわかりますか」という設問に93.6%の児童が「とてもわかる」「わかる」と回答している。(昨年同期と比べると1.7ポイント上回っている。)
- ・「授業(勉強)でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」という設問に「あまり聞いていない」18.6%、「聞いていない」5.3%と回答しており、昨年度同様この割合がそれなりに高く、引き続き課題として考えていく必要がある。
- ・児童へのアンケートで肯定的な回答の割合が80%未満の項目は、上記以外に、「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。(74.3%)」「今住んでいる地域の行事に参加していますか。(75.9%)」「もし、いじめをしている人がいたら、止めることができますか。(78.1%)」である。いずれも70%は超えている。今後、回答を詳細に分析するとともに、この割合を少しでも上げる手立てを検討していき、更なる児童の前向きな姿勢を育成していきたい。





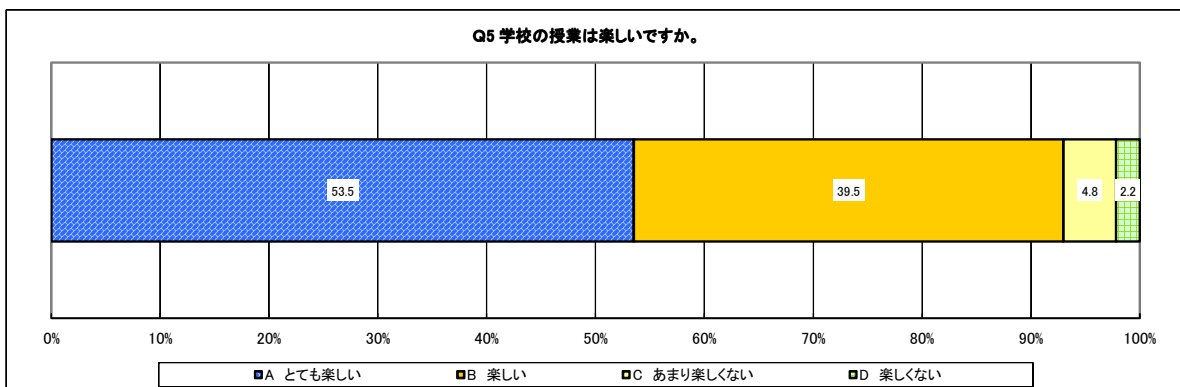


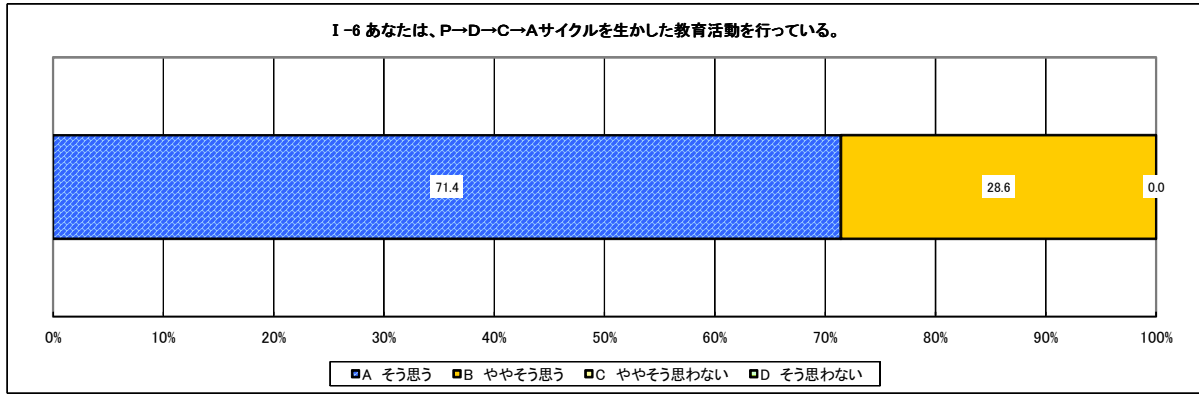
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- ・全教職員が、学校教育目標具現化に向け、学校経営方針を理解し教育活動を行っている。児童のアンケートを見ても、全校児童の94.7%が「学校がとても楽しい」「楽しい」、96.8%が「クラス（学年）に仲の良い友だちがたくさんいる」「いる」、93.0%が「授業がとても楽しい」「楽しい」と回答している。ただし、これらの設問に対し、それぞれ5.3%、3.2%、7.0%の児童が満足していない状況であることも事実である。
- ・P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動の実施については、「そう思う」「ややそう思う」が合計で100%ではあるが、「そう思う」が71.4%、「ややそう思う」が28.6%であり、昨年度同期の調査よりは、「そう思う」の割合が5.9ポイント上がってはいる。P→D→C→Aサイクルの流れが定着してきていると思われる。





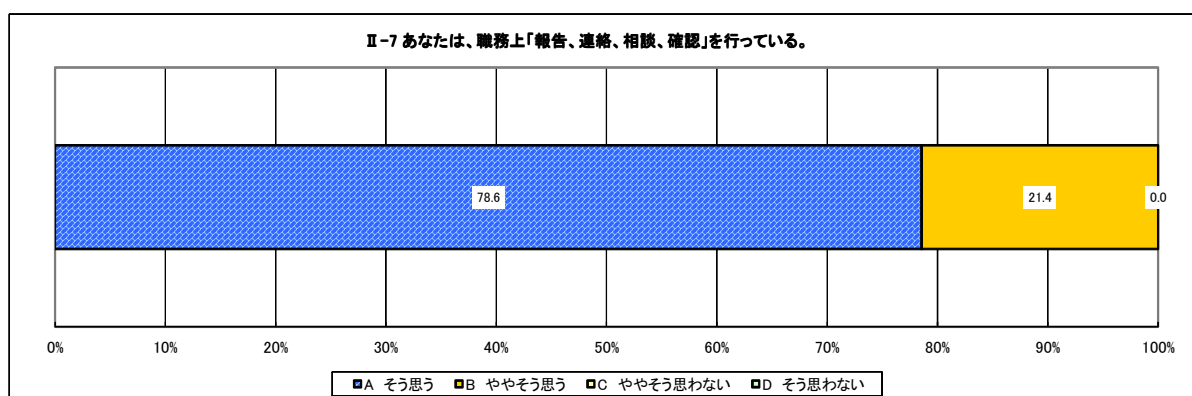
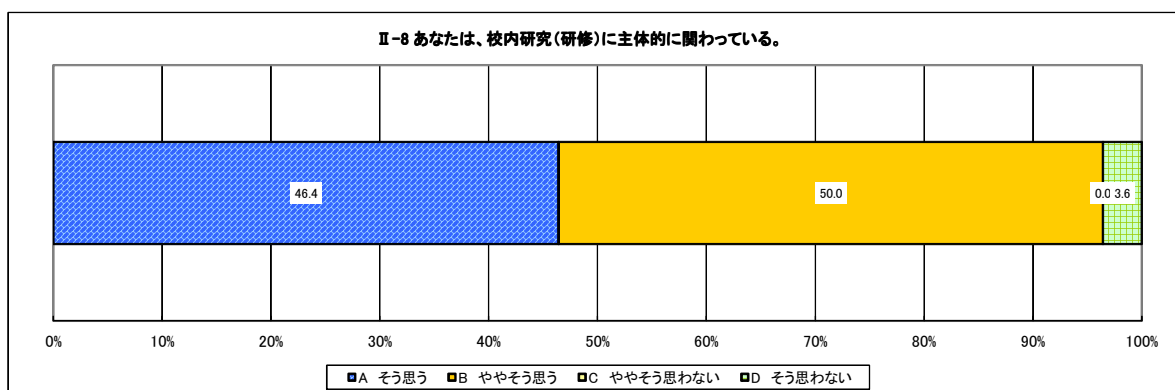
改善策

- ・ 確かな学力の定着については、個に応じた指導の充実、体験的な学習の積極的な取り入れや問題解決的な学習の重視、指導と評価を常に一体的にとらえるよう工夫・改善の一層の充実に努める。昨年度末より取り組んでいる、「自学のすすめ」への取り組みを一層充実させていきたい。
- ・ 豊かな心の育成については、児童理解に努め、道徳の時間の充実や体験活動（自主的、自発的な学級会や児童会活動、自然体験、読書活動等）の充実を図り、家庭や地域と協力し「声かけ」「あいさつ運動」に取り組む。
- ・ 「友達作り」に関しては、引き続き相手を思いやる心を持ち、仲間を大切にすることを児童を積極的に育成していく。そのことが「学校が楽しい」にも通じていくことになる。
- ・ P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動の実施については、この流れ自体はかなり定着してきたと思われるので、さらに課題を焦点化して、職員が共通意識を持ちながら、集中的に実践する機会を設けていく必要がある。

II 学校運営について

達成状況

- ・ 校舎内外の施設設備の管理、個人情報保護・セキュリティについての教職員の意識は高く、諸表簿や公文書、記憶媒体を適切に管理している。職員相互に適切な管理の呼びかけも行っている。
- ・ 防犯、防災、事件、事故等に対する危機管理マニュアルの理解については、十分理解する機会と時間の確保に一層努めて行く必要がある。特に防災に関しては、3年前に起きた東日本大震災から学んだ多くの体験を生かすために、マニュアルの継続的な検討を引き続き行い、より現状に合う形としてきた。
- ・ 校内研究（研修）への関わりについては、46.4%の職員が前向きに関わったと回答する一方で、50.0%の職員が「ややそう思う」という結果であった。テーマは「主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた子どもの育成とし、サブテーマとして～算数科における活用力を育む指導を通して～を設定し、算数科をメインにした取組を行っていく。
- ・ 「あなたは、職務上「報告・連絡・相談」を行っている」の設問に対しては、「そう思う」78.6%、「ややそう思う」21.4%で、報連相については概ね良好と言える。



改善策

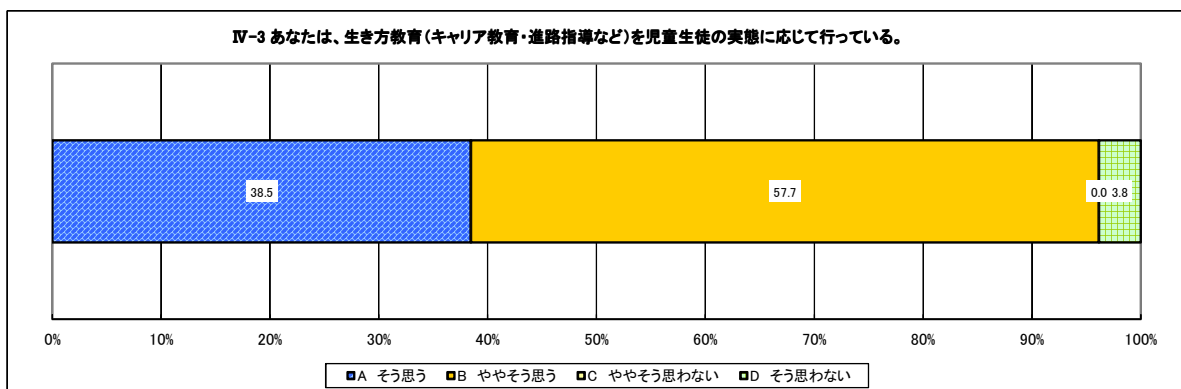
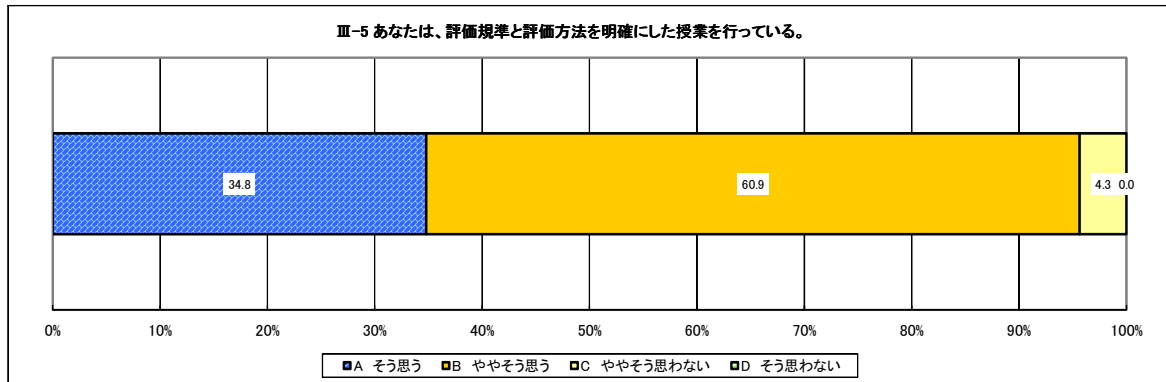
- ・ 防犯については、マニュアルの確認の機会を一層もつとともに、「声かけ事案」「学校への不審者侵入」「通報訓練」等、想定を変えた防犯教室を関係機関（警察署）と連携する中で実施し、児童や職員の意識と技能の向上を図る。本年度は昨年度に引き続き2年生においても防犯教室を実施した。また、昨年6月に首都圏の小中学校で起きた、正門付近での集団下校児童への傷害事件を受け、「学校への不審者侵入」に対する取組を積極的に行っていきたい。
- ・ 施設、設備の安全点検については、日常の観察と定期的な安全点検を徹底し、速やかに修繕と危険物の除去を行う。校舎の老朽化も進んでいるため、日常の点検を小まめに行うことに心がけている。
- ・ 地震、火災等に対する防災については、定期的な避難訓練をより現実に近い形にし、保護者と連携しての引き渡し訓練の在り方を引き続き検討していく必要がある。予告無しの防災訓練の実施も積極的に行っていく。
- ・ 個人情報の保護・セキュリティについては、全職員に日常より更なる自覚を促し、管理（文書管理マニュアルの徹底、パスワードの設定）に努める。慣れには十分注意していき、常に基本に立ち返ってセキュリティの徹底確認を行っていく。

III 学習指導について（児童生徒用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・ 全校児童の93.0%が「授業がとても楽しい」「楽しい」、98.3%が先生は「勉強をよく教えてくれる」「教えてくれる」と回答している。基礎的、基本的な内容の確実な定着のために、個に応じた指導の充実に努めている結果が表れていると言える。
- ・ 「もし授業でわからないことがあったら、先生に聞けますか」という設問に対しては、「よく聞いている」が38.0%、「聞いている」が38.0%と回答した。今後も継続して「聞くことができる」教室環境を作っていく必要がある。

- ・評価規準と評価方法を明確にした授業の実施については、「そう思う」「ややそう思う」がそれぞれ、34.8%と60.9%であった。また、「ややそう思わない」が4.3%であった。
- ・「あなたは、生き方教育（キャリア教育、進路指導など）を児童の実態に応じて行っている。」という設問については、「そう思う」38.5%、「ややそう思う」57.7%である。「そう思う」の割合が決して高いとは言えず、キャリア、進路について更なる共通理解、研究が必要である。



改善策

- ・楽しい授業、わかる授業を目指し、今後とも個に応じた指導（繰り返し指導、グループ別指導、補充的な学習等）や体験的な学習（作業、実習、創作、実験）の充実を図っていく。
- ・本年度集中的に取り組んでいる算数科の実践（朝学習のパワーアップタイム：算数科の継続的な基礎学習等も含む）を積極的に行うとともに、その成果を検証していく。
- ・キャリア教育、進路指導に関しては全体計画を再度確認するとともに、より児童の実態にあった実践の工夫が必要である。県のキャリア教育研修などの内容を積極的に生かしていく。
- ・評価規準と評価方法を明確にした授業の実施については、今後も計画的に実践を紹介しあったり、その効果について研究する機会（校内研究）を設けたりする。評価規準の見直しを常に行っていく。評価規準についての共通理解を行っていく。

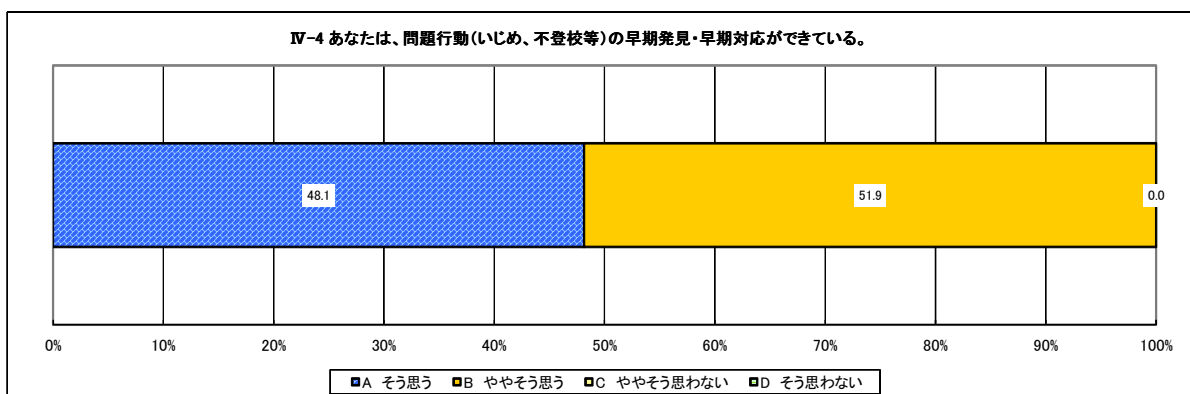
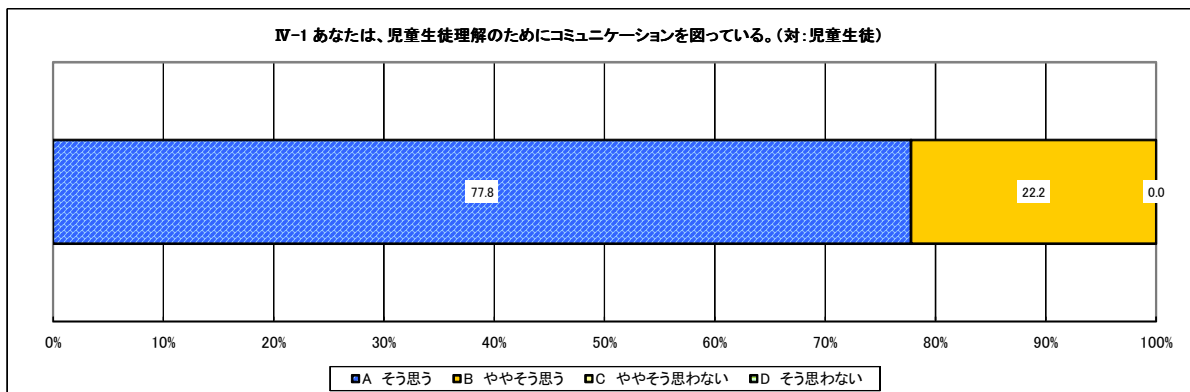
Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用アンケート等も含めて）

- ・「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」、「規範指導に取り組む指導に取り組んでいる」はいずれも100%の職員が「そう思う・思う」と回答した。これは、学校経営方針の一つ「より深い児童理解に努め、指導方針や内容

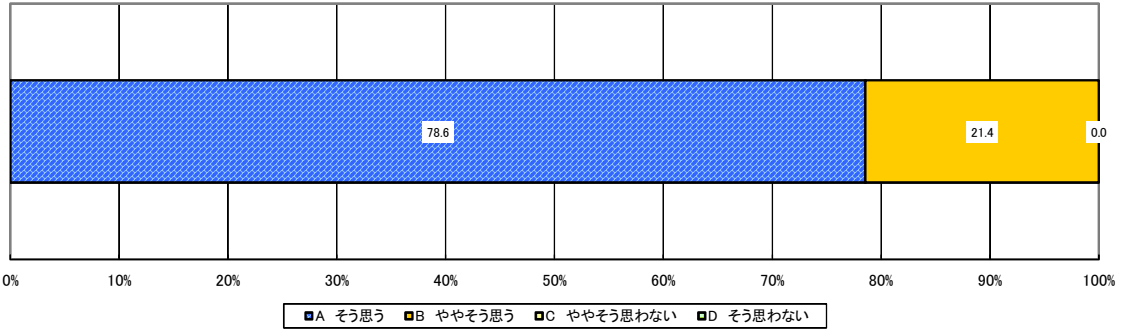
達成状況

の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる」をよく理解し、学級経営の充実や教師と児童、児童相互の人間関係づくりを重点に取り組んでいるからと考えられる。

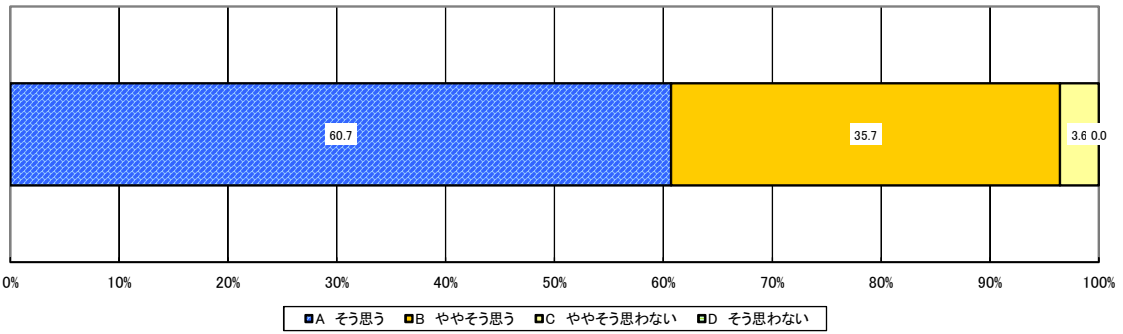
- ・「問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができています」「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」「健全育成のために学校、保護者、地域及び関係機関との連携が図られている」等については、「そう思う」「ややそう思う」の合計が、それぞれ100%、100%、96.4%といった回答で高い割合であった。
- ・「人より先に、あいさつをしていますか。」の設問に対して85.5%の児童が「よくしている」「している」と回答しており、昨年同期とほぼ同じ割合である。
- ・「もしいじめをしている人がいたら、とめることができますか」の設問に対して78.1%の児童が「しっかりできる」「できる」と回答しているが、「あまりできない」「できない」と回答した児童が21.9%いることは確認しておく必要がある。
- ・「朝ご飯を食べて登校していますか。」「将来の夢や希望を持っていますか。」について「食べていない」「持っていない」と回答している児童が、それぞれ3人、13人いることも確認しておく必要がある。（昨年同期とほぼ同じ数である。）



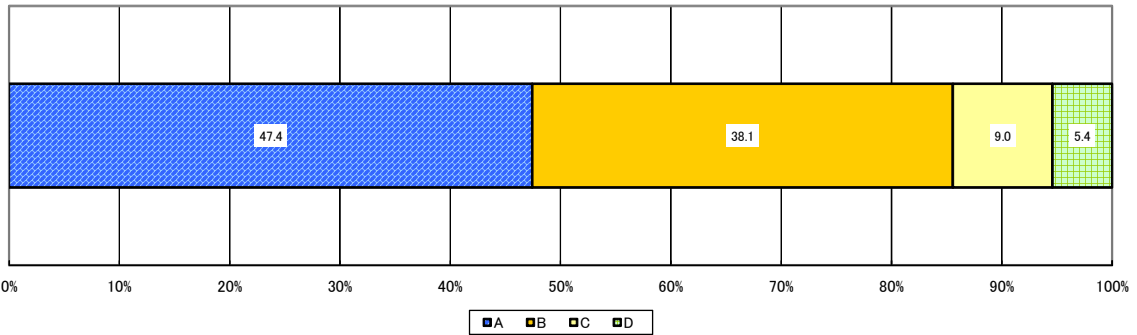
IV-5 あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。



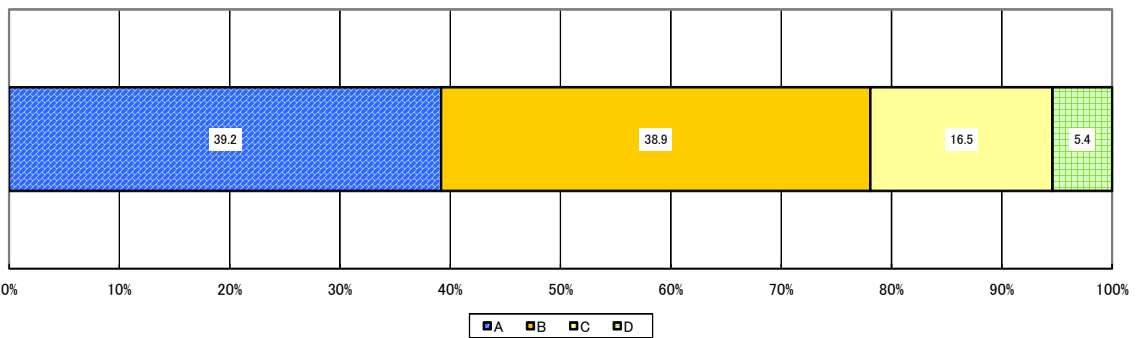
IV-6 あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。

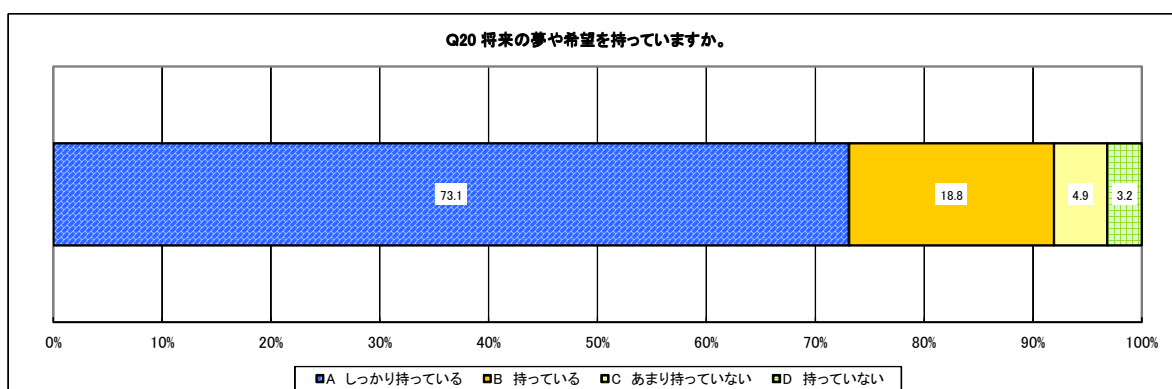
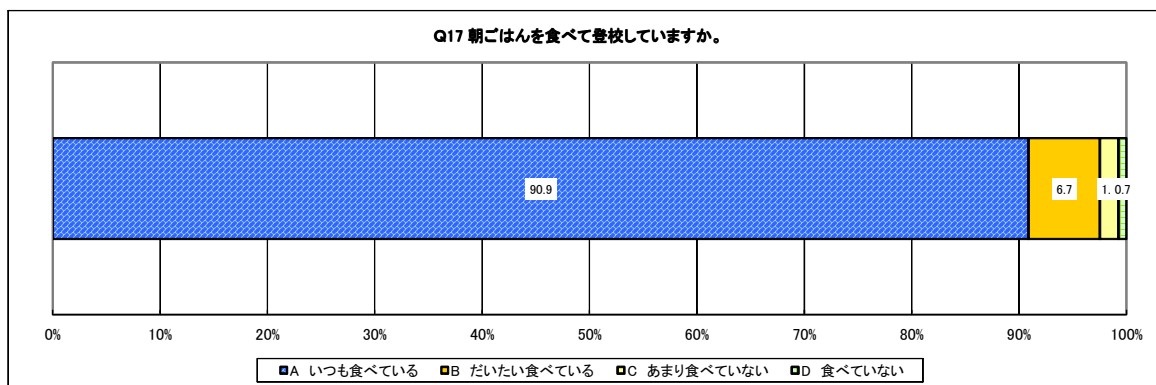


Q27 人より先に、あいさつをしていますか。



Q26 もしいじめをしている人がいたら、止めることができますか。





改善策

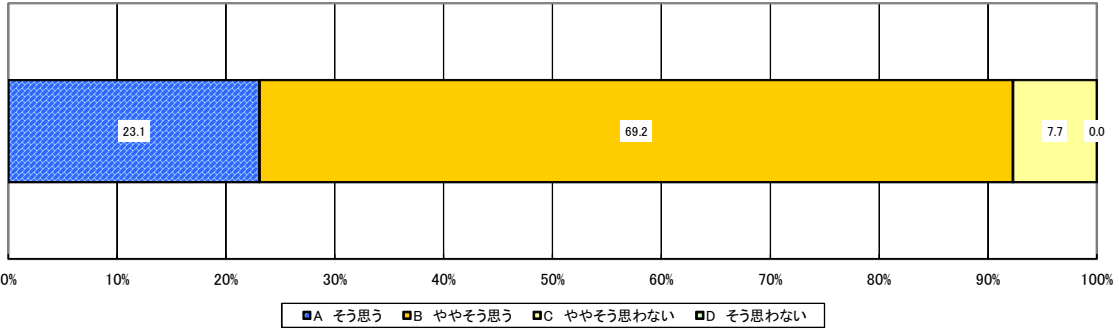
- ・ 児童一人一人についての理解と共感的理解（カウンセリングマインド）に努め、教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を育てる。
- ・ いじめについては、児童の日常の様子、他の児童や職員、保護者等からの情報、アンケートの分析等をもとに、積極的な早期発見に努める。そして、絶対に許さないという毅然とした態度で臨むとともに、何でも言い合える環境づくりに努める。
- ・ 不登校への支援としては、継続的に諸機関とも連携し、児童や保護者への相談体制の充実を図る。
- ・ あいさつ運動については、本校の大きな課題として職員間でも取り扱うようにする。あいさつがしっかりできることの良さを日常的に機会を捉えて紹介していく。児童会の取組も継続的に行っていく。

V 地域との連携について

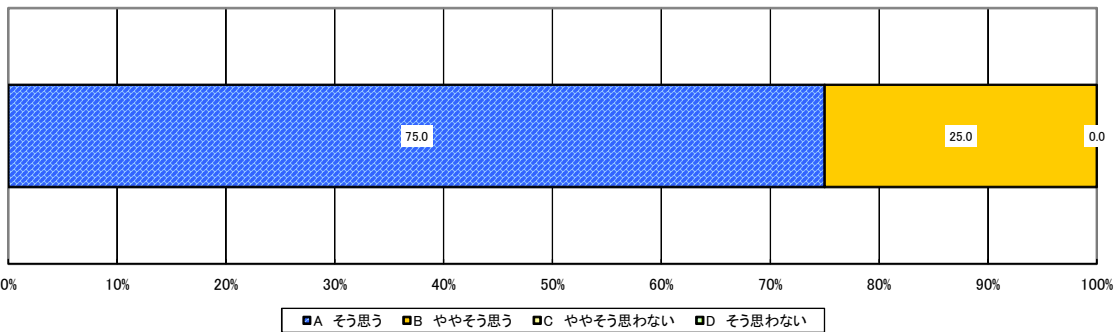
達成状況

- ・ 「地域の人材や施設の活用」については、「そう思う」が23.1%「ややそう思う」が69.2%であった。昨年同期に比べ、「そう思う」の割合が28.8ポイントも減少している。積極的な活用と、人材の洗い出しが必要である。
- ・ ほとんどの教職員が、お便りやホームページ等を通して、教育活動や学校運営について地域や保護者に積極的に情報を発信している。
- ・ 職員はPTA活動に主体的に参加している意識があり、保護者のPTA活動に対しても、概ね協力的であると感じている。
- ・ 「地域、保護者は、児童生徒の安全確保に努めている」については、全員の職員が協力的だと感じている。保護者による「登校時の旗振り」、高齢者による「子どもの帰り道ふれあい事業」など、児童の安全確保に有効に機能していると思われる。

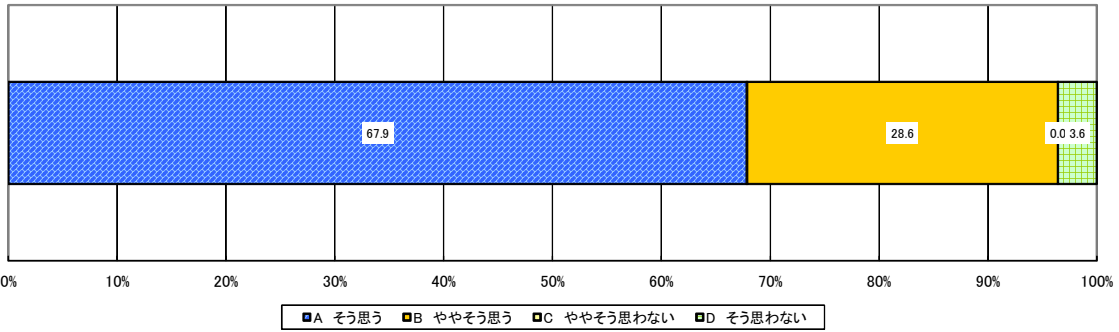
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。



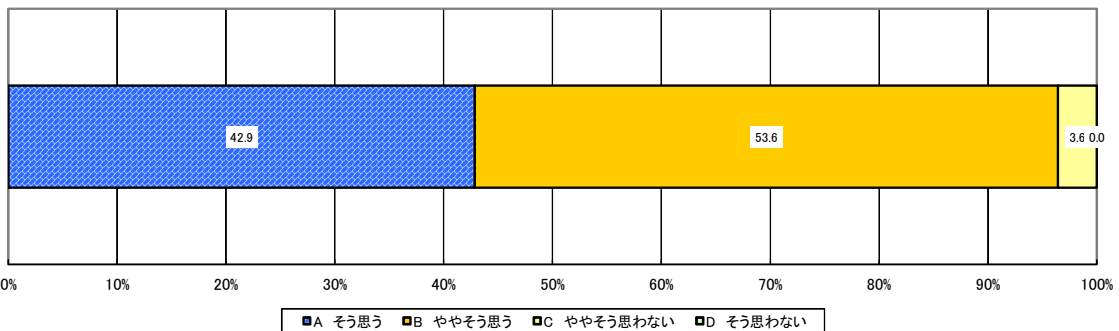
V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。

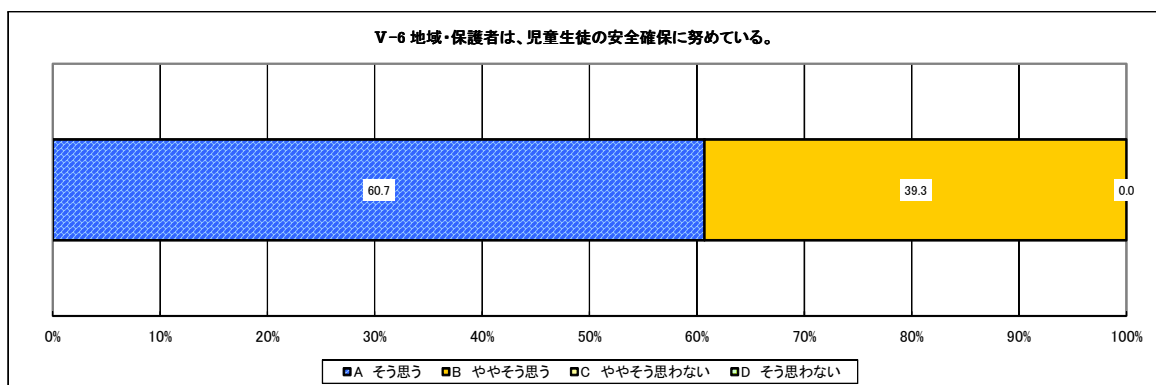


V-4 あなたは、PTA活動に主体的に参加している。



V-5 保護者は、PTA活動に協力的である。





改善策

- ・家庭や地域への積極的な情報発信（学校・学年・学級便り、ホームページ等）を引き続き行い、学校開放（授業参観、行事への参加、学習支援等）、学校評価結果の公表と教育活動の改善など、家庭や地域、関係機関等と一体となつての教育活動を展開する。
- ・保護者や地域に住む高齢者等の協力を得て行う授業の実施、地域素材の発掘と教材化などを継続して実施していき、地域の教育力を教育活動に反映させるよう努める。
- ・通学路の安全確保に引き続き積極的に取り組み、児童への指導、安全環境への配慮を重点的に行っていきたい。

VI 学校の特色に関して

達成状況

- ・学校経営の重点項目の一つとして、引き続き「あいさつ」を取り上げ、児童会活動と一体となって取り組んでいる。「人より先に、あいさつをしていますか」という設問に対し、85.5%の児童が「よくしている」「している」と回答している。昨年度とほぼ同じ割合である。あいさつに対する意識の高まりが感じられる。積極的に継続していきたい運動である。
- ・他の重点項目として「きれいな学校」に取り組んでいる。師弟同行による日常の清掃活動、児童会活動による「敷小キレイキレイ作戦」では、草取り、石拾いなど、具体的な活動や場所をきめて1学期末に取り組む予定である。
- ・本校の特色ある教育活動の一つとして合唱活動に取り組んでいる。一学期には3回のドレミファ集会を実施し、音楽の学習や学年の合唱活動の成果を発表するよい機会となっている。
- ・「泉の時間」（始業前活動）を設定し、「よむよむタイム（活動）」「学習タイム（自主的な学習）」「ファミリータイム（縦割り班活動）」「スポーツタイム（体育活動）」などの活動を計画的に行い、児童も前向きに取り組んでおり、教職員の意識も高い。朗読サークルの方々のボランティアによる参加も積極的に行っている。「ファミリータイム」については、昨年度と同様に、より一歩進んだ活動として、実施する種目の選択制、より高い上級生の指導力の発揮場所を設けている。

3 まとめ

〈成果〉

- ・教職員が学校教育目標達成に向け、学校経営方針に基づいた教育活動を展開している。学習指導においては基礎・基本の定着、個に応じた指導を重点に確かな学力の定着に取り組んだ。このことは、児童の「授業が楽しい」「先生はわかりやすく勉

強をおしえてくれる」といった評価結果にも現れ、児童の学習意欲を喚起する結果となっている。また、生徒指導においては、積極的なコミュニケーションによる児童理解ときめ細かな指導により、きまりや約束を守るといった規範意識が高まり、行動へとつながっていると考える。

- ・本校の特色教育活動である「ファミリーグループによる活動（縦割り班活動）」の内容の工夫と計画的な取組は、全校集団づくりや学級集団づくりなど、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係づくりといった面で大きな効果を発揮している。
- ・教職員一人一人が、常に研究と修養に努め、教育的愛情をもって、教育活動に取り組むことにより、学校教育目標である「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」を図りたい。

〈課 題〉

- ・相次ぐ災害、事故、不審者等、学校安全に関わる取組の改善が引き続き強く求められている。防災講話、予告なし避難訓練の積極的实施、マニュアルの変更点の共通理解、児童への指導等、より安全な環境作りを目指していく必要がある。
- ・教職員の自己評価と児童のアンケート結果から、教育活動に取り組む教職員の意識と児童の学校生活における感じ方にさほど差がないことがわかった。今後はこの結果を教育活動のさらなる充実につなげていくために、実践を振り返り工夫していきたい。P→D→C→Aサイクルを更に生かした学校評価、改善を繰り返しながら、より高次の教育を追求していく必要がある。
- ・児童や学校が抱える諸課題の解決に向け、今後も家庭や地域の人々との情報共有や教育活動への参画を求めていきたい。